

ポジティブなイメージを生み出す、 ユニフォームデザインを。

小野翔子
(デザイナー)

「服飾系の専門学校に通っていた時に、一枚の布から立体的な服ができることにとても感動しました。」という小野さん。そこから、学校で学んだことを生かして、服に関わる仕事がしたいと思い、この仕事を選んだそうです。

入社時から主にサービスユニフォームの企画・デザインを担当しており、「WSP(WORKSHIP PROJECT)」というブランドを担当し、小売業などに関わる方々のユニフォーム企画を行っています。

「自分のデザインしたユニフォームが、業種や企業のイメージを生んだり、高められたりできるのが、この仕事の魅力」と語っており、業種・職種や企業カラーによって、生地選びからポケットの位置や有無を変えるなど、細部にいたるまで、デザインには気を配っているそうです。「例えば、商業施設やアミューズメント施設の清掃スタッフの方は、人前で昼間に作業する方もいらっしゃいますので、清潔感が出るようなデザインや、スタイリッシュなイメージになるよう心掛けています。時には大き目のチェックやストライプ等の流行りの柄を取り入れ、デザインでイメージをよくすることができるのが魅力ですね。」



もっと生の声

Q & A

- やりがいを感じるの、どんな時ですか？
- 自分がデザインしたユニフォームを着用してお客様が笑顔で働いている姿を見る機会があり、仕事への励みになりました。何事も前向きに、信念をもって取り組んでいくことを心掛けていますが、それがうまくお客様の求めることにハマったと感じた時はとても嬉しいです。そこがものづくりの楽しさですし、お客様に常によいと思ってもらえるよう努力していきたいです。
- デザインする上で心掛けていることはありますか？
- 職種によって、接客に適した距離や角度は異なります。お客様から見て最も良く映えるユニフォームとなるよう、見る人の視線を意識したデザインを心掛けています。また、空間に調和するデザインであること、仕事の特徴を考慮したデザインであることも重要です。テーマパークのスタッフの方たちは、遠くから見つけやすいことが必要ですから、パッと目立つ色をベースに存在感を際立たせるデザインにしています。
- 今後目指していることはありますか？
- 今の夢は大口の物件を決めることです！今まさに大企業から大口の注文が来ていて、営業スタッフと一緒に販売代理店の方と話し合い、お客様の声を聞きながら進めています。ものづくりには正解がないので、難しく感じることもあります。お客様がよいと思うものが正解だと思っています。

